

兵庫県立小野高等学校卒業証書授与式 校長式辞 (R7.3.1)

冬の寒さも和らぎ春の息吹が満ち始め、躍動の気配が感じられる今日の佳き日に、公私ともご多用の中、御来賓として、外務副大臣で衆議院議員の藤井比早之様、衆議院議員 橋本慧悟様 県議会議員 小林昌彦様、PTA会長 末吉哲大様、蜻蛉会会長 長谷川雅清様、多可町教育委員会や市内4中学校を含めた学校関係者の皆様にご臨席を賜り、兵庫県立小野高等学校 第七十七回卒業証書授与式をこのように挙行できますことは、大きな喜びです。

ただ今、卒業証書を手にした二百七十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆さんは、3年前、コロナ禍の中で、思い描いていた高校生活とは違ったスタートになったかと思いますが、2年生からは通常の高校生活ができるようになりました。

昨年2月の沖縄での修学旅行では、「77(なな)くるないさー たのしいさー」を合い言葉に、普段できない様々な体験をしました。特に、エイサー発表会では、クラスで団結した素晴らしい発表で盛り上がりました。3月のコーラス大会では、まとまったハーモニーを奏でて、エイサー発表会のリベンジをしたクラスもありました。

3年生となった4月の蜻蛉祭では、笑顔に満ちあふれた文化祭にしたいと「笑顔満祭」をテーマに文化部の発表を中心に盛り上がり、2日目の一般公開には約千三百人もの来場者がありました。私もダンス部と一緒に「マツケンサンバ」を踊ったことは、忘れない思い出となっています。また、7月の球技大会では、3年生の生徒会執行部の強い願いや先生方の計らいで、雨天中止をさらに延期して、実施できて本当によかったです。

9月の体育大会では、共に闘って最後は笑顔で締めくくろうと「共闘結笑」をテーマに取り組み、大変暑い中、六百人余りの来賓や保護者の方に来て頂きました。本校の名物であるクラス担任を変装させた着付け競争、かけ声をかけて跳んだ長縄跳び、各種リレーの頑張り、特に、最後に学年主任の宇野先生や、副主任の藤原千佳子先生を胴上げして感謝を表す皆さんの姿に、思いやりと優しさを感じました。

私自身、皆さんの笑顔や頑張る姿を、行事の度にカメラに収めて、ホームページにアップしたことも懐かしく思います。

部活動では、全国大会、近畿大会などで活躍して、後輩を育ててくれました。今年度は、陸上競技部、ビジネスライセンス部、放送部、天文部、美術部、文芸部、書道部が全国大会出場を果たし、近畿大会には陸上競技部、水泳部、空手道部、囲碁・将棋部が出場し、皆さん自身や後輩たちが素晴らしい成果を残してくれました。

ビジネス探究科では、全国商業高等学校協会、いわゆる全商主催の検定試験の九種目において一級を合格した九冠が二名、八冠が四名という、昨年度に続く素晴らしい成績で、その他の表彰者も多く、素晴らしい頑張りで、昨日多くの人を表彰しました。課題研究での様々な取組が何度も新聞に取り上げられました。個人的には、メモリアルウェディング 夢プランに、私自身が家族でモデルになったことも一生の思い出となりました。

科学探究科や生物部の行った探究活動での研究が「高校生バイオサミット in 鶴岡」において2年連続の厚生労働大臣賞を受賞するなどの活躍に加え、探究活動の成果発表や論文作成など、たくさんの賞を受賞するなど、よく頑張ってくれました。

普通科も含めて皆さんは、様々な分野での活躍だけでなく、将来の進学・就職に向けて気持ちを切り替え、進路実現に向けて本当に最後まで頑張ってくれました。

高校時代に身につけた様々な経験や能力は、今後の人生の中で必ず役に立ちます。

さて、世界の発明王と言われるエジソンは、白熱電球、蓄音機、映写機、セメントなど、生涯をかけて千を超える発明をしました。まだ、家庭ではろうそくかランタンの時代であった145年前に白熱電球を発明しています。豆電球を思い浮かべてもらうと、ガラス管の中の渦を巻いているフィラメントに電流が流れると輝く仕組みです。このフィラメントの耐久性が問題で、熱で溶けてしまうため電球の寿命は数十秒しかなかったようです。どんな素材でフィラメントをつくれればよいか。一つ一つ実験して確かめて、失敗の数が一万回を超えた時、若手の助手が耐えかねて「これだけ失敗しても、まだ続けるのですか。もう無理かもしれませんね。」と言うと、エジソンは「失敗だって、とんでもない。うまくいかない方法を見つけただけだ。一つ前進したと思えばよい。途中で諦めることが失敗なんだ」と答えています。それから一年以上たった、ある日、百時間以上の耐久性を達成して実用化への活路が開かれました。この白熱電球の発明がなければ、今のLED電球の発明には至っていないかもしれません。

エジソンは、幼い頃、勉強についていけず、小学校を三ヶ月で退学しています。十二歳のときから耳を悪くして、難聴にも悩まされていました。ハンディを抱えながらも、まっすぐに努力した結果が、エジソンが「天才」と呼ばれるまでになったわけです。エジソンのことばである「天才とは、一パーセントのひらめきと、九十九パーセントの努力である」は有名です。目的の大きさに比例して、努力精進しなければならないのは当然ですが、当たり前のことを、前向きに、誠実にできる人が成功するのです。

本校の校章であるトンボは、前にしか進まず、先を考えて行動できる昆虫で「勝ち虫」といわれます。トンボの魂である、挑戦し続けて失敗しても最後まで諦めない「蜻蛉魂」を忘れず、本校の掲げている「世界で突き抜ける小野高プライド」の精神で、社会を牽引して地域を支え、将来活躍してくれることを期待しています。

また、本校の校是である「明き・浄き・直き 誠の心」の精神をこれからも持ち続けてください。多くの知識や技能を身につけて何事にも明るく、邪で恥ずかしい心を捨てて、浄らかな「自利利他」と言われる他人を思いやる行動をして、素直な気持ちを持ち続けてください。これまで励ましてもらった両親や先生方、共に過ごした友人への感謝の気持ちも忘れないでください。

皆さんは、これからは違った進路に進み、違った職業に就いて、違った人生を歩むこととなりますが、一人ひとりが目指す目標に向かって、本校で身につけた力を発揮してください。皆さんにとって、高校三年間を過ごした母校が、これからも心の支えであり続けることを願っています。

これまでお子様を励まし支えてこられました保護者の皆様、お子様のご卒業を心より祝福申し上げます。

また、三年間にわたり本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。これからも、本校へのご支援を賜りますようお願いいたします。

二百七十名、一人ひとりの限りない前途に幸多からんこと、そして、これからの人生で目的をもって努力し、夢を実現されますことを心より祈念し、式辞といたします。

令和七年三月一日

兵庫県立小野高等学校長 小倉 裕史